

今年度このページを担当するスタッフのご紹介をします♪



河野 佳子

プライマリー・モンテッソーリ担当の非常勤保育士、河野佳子です。

今年度も、お仕事の大好きなお子様たちの意欲を十分に満たすことのできる環境を担当の先生と一緒に作って参ります。

「鉄製はめ込み」は私の好きなモンテッソーリのお仕事の一つです。鉄製の図形の枠で様々な幾何図形を描きます。娘が小さい頃毎日のように園から「ママへのおみやげ」として色々なデザインを持って帰ってきてくれたことも良い思い出として残っています。

鉄製はめ込み

(言語教育)



秋元 有里

私が好きな活動は、数の活動「銀行ごっこ」です。ビーズとカードによってたし算、ひき算、かけ算、わり算を行います。お友達と一緒にいき、銀行やさんを一人決め、小さいカードをもって、銀行やさんにビーズをもらいにいきます。このやりとりが魅力的です。

そして大きな風呂敷にビーズを全部一緒にします。全部一緒にすることがたし算。目で見ても重さや量を感じて…難しいことばはいりません。感覚的に楽しみながら数へと導いていくのです。そんな楽しい時間を子どもと一緒に感じていきたいです。そして、子どもたちのたくさんのできた！を引き出していきたいです。

銀行ごっこ

(数教育)

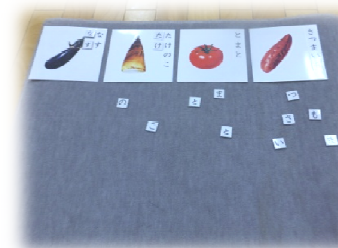


川村 広美

私の大好きなお仕事は「文字さがし」です。大人は「なす」と書いてあったら「なす」と読みます。文字を読み始めたばかりの子は「な・す」と読みます。”「な」と「す」という文字を合わせたら「なす」になる”ということをわかりやすく教えてくれるのがこの教具です。AMIの資格を取る為に通った学校での初めてのテストでこの教具が当たりました。数え切れない位練習を繰り返し、意味を考え、子どもたちにも何度も提供しました。その為とても印象深く大好きなお仕事になっています。「もう1回やりたい」「このお仕事が好き！」と思えるような活動にみんなが会えるよう、今年度も沢山提供していきたいです。

文字さがし

(言語教育)



AMI (国際モンテッソーリ協会) 公認の有資格者です。他に、正岡、藤井が、有資格者となっております。

茶色の階段

(感覚教育)



感覚教材の中で有名なもののひとつ茶色の階段があります。太さが一辺10cmから1cmまで1cm刻みで細くなる10本の直方体でできています。太いものから順番に階段を作ります。順番に並べるときは、視覚を使って並べるのですが、順番を抜かしてしまったりすることもあります。ひとりひとり気づくタイミングも様々ですが、私たちはその様子を見ながら、自らの気づきを大切にしています。

このようにモンテッソーリの教材には自ら気づけるようになっていきます。お部屋に正しく置いてあることもとても大切です。見る力、注意力を育て、両手を使って違いを感じたり、ぴったり合わせたり、触覚を楽しむこともできます。3才位の子どもたちが繰り返し行う活動です。(Y.A)



スポンジを使う

(日常生活の練習)



外の空気が気持ちよいこの季節。テラスでのお仕事に誘うと、子どもたちは喜んで出てきます。「色水注ぎ」や「スポンジを絞る」などのお仕事を繰り返し、水差しで液体を注いだり、スポンジの取り扱いが上手になった子どもたちに次に紹介するのが、この「スポンジを使う」お仕事です。スポイトで色水を垂らしたテーブルをスポンジと台拭きを使って綺麗にするお仕事です。スポンジで汚れを拭き取り、その後乾いた台拭きでくるくると磨き、仕上げます。汚れがひどい場合はこのあとにブラシを使ってテーブルを綺麗にする「テーブルを洗う」というお仕事を紹介しますが、モンテッソーリのプログラムではこのように一つ一つ段階を踏んで子どもたちができることを自然に増やしていくよう構成されています。(Y.K)



幾可筆筭とカード

(感覚教育)



6段の筆筭の中には様々なつまみ付きの幾何図形が入っています。その形を手でなぞったり、パズルのようにはめ込んだりして特徴をとらえた子が次に挑戦するのが3種類のカードです。“塗りつぶしのカード”“太線のカード”“細線のカード”があり、このカードはだんだんと合わせるのが難しくなっていきます。塗りつぶされた形と細い線で書かれた形が「同じ」と、わかった時、自分のまわりにあるたくさんの形に興味を持つようになります。例えば円だと…牛乳を飲もうとしたコップが“円”だったり、「今何時？」と見た時計が“円”だったり、道路を渡ろうとして見た信号が“円”だったり。身のまわりにはたくさんの形がある事を知り、発見を楽しむようになっていきます。(H.K)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介します目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうなつもりでお読みください。

色水つぎ

(日常生活の練習)



ガラスのピッチャーに形の異なるコップを準備します。コップには、量線があり、線のあるところまで水を注ぎます。注ぐ姿は真剣そのもの、間違えは、線をこえてしまうこと。ちゃんと教具が教えてくれます。自分で気付き、もう一度チャレンジ！！手首の運動、調整を繰り返すことで、線までぴったり注ぐことができます。時には、黄色、赤、水色と色を変えたり、容器の形を変えたり、活動の幅を広げていきます。

この活動を何度か行ったあとは、お茶を注いだり、「お茶のサービス」という活動につながり、生活活動へ自信をもって参加することができます。

(Y. A)



テーブルを洗う

(日常生活の練習)



先月は「スポンジを使う」というお仕事をご紹介しました。色水で軽く汚したテーブルを濡れたスポンジで拭いて綺麗にするお仕事でしたが、その次の段階で子どもたちに紹介するのがこのお仕事です。今度はクレヨンで汚したテーブルをブラシに石鹸をつけてこすり、汚れを取ります。モンテッソーリの「日常生活の練習」のお仕事では様々は道具の使い方を紹介します。状況に応じて道具を使い分けるといこと、また道具の正しい使用方法を子どもたちに知らせます。ブラシは一方向に動かすのではなく、くるくる回しながらこすると汚れがとれるのだということを経験します。力と根気のいる仕事ですが、その過程で、柔らかい手首をつくり、手先の洗練促します。

(Y. K)



小さい箆2

(言語教育)



私達がすごしている環境の中には様々な物があり、それには全て名前がついています。「小さい箆2」はその中で“持って来られない物”の名前を読む活動です。小さな短冊に書かれた文字を読み、その物を探して貼りつけます。

青バッチになると自分で持って来られないものを考えて書いたり、お友だちと一緒にいたり、とても人気の活動です。

“かべ”や“かいだん”“まど”など小さな短冊を見かけることもあるのではないのでしょうか？

(H. K)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありベースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしています。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

色板Ⅰ

(感覚教育)



色板Ⅰの箱には赤、黄、青3原色のきれいな糸が巻かれた板が一對ずつ入っています。箱から丁寧に取り出し机の上にバラバラに並べ、その色をよく見ます。同じ色を探して対にし、それを様々な角度から見ると…光が当たってキラキラ輝いているのです!!みんな夢中になって色板を見つめます。その美しい色板は子どもたちの色彩感覚の発達を助け、壮大な芸術の世界への鍵を与えてくれます。また、「あか」「あお」「きいろ」等の色の名称を覚えたり、身の回りで同じ色の物を探したり。活動の方法はいろいろあります。(H. K)



ビーズの紹介

(数練習)



数の活動にかかせない「ビーズ」の教具。金色のビーズで、1のビーズ、10のビーズ、100のビーズ、1000のビーズがあり、まずは、名称をおぼえ、「1のビーズが10個で10のビーズ」と実際に数えながら伝えていきます。1のビーズは小さくて、軽いですし、1000のビーズはずっしりと重いので、子どもたちはビーズに触れながら名前に親しみをもち、互いの間にある寸法の違いを感覚的に知っていきます。ビーズの位置も重要です。1のビーズより右から左側に順におかれてあります。これは、位どりの準備にもつながり、各単位の位置が決められているのです。数字を書いたり、声に出して数えるだけでなくこのように具体物に触れながら子どもたちは、数への知識や興味を広げていきます。(Y. A)



葉のたんす

(感覚教育)



葉の緑が美しいこの季節、外を歩いていると、いろんな葉の形が目飛び込んできます。この時期に子どもたちに「葉のたんす」というお仕事を紹介します。3段のたんすの引き出しに15種類の木製の葉の形が入っていて、子どもたちは、鉛筆のような棒で葉の縁をなぞり、いろいろな葉の形を感覚で確かめます。枠にはめ込んだり、カードと合わせたりする活動を通じて、その形を十分確かめた後、名称を知ります。活動の延長として、葉の形を紙で切ったり、塗ったりした本を作ります。お散歩に持っていき、道端の葉を観察して、「とうだいうじょうけい」のタンポポの葉や「だえんけい」のあじさいの葉を見つけて観察を楽しんでいます。(Y. K)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありベースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしています。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

数の棒

(数教育)



数の棒は数教育のプログラムで一番初めに子ども達が触れる教具です。1番短い棒は赤、次の棒は赤・青、その次の棒は赤・青・赤…というように、10cmずつ交互に塗られた10本の棒は数の集合を長さで教えてくれます。棒の色に合わせて手を置いて「1」「1・2」「1・2・3」初めて触れる日はここまで。

1から3までを覚えられたらもう1本足して…と、だんだんと増やしながら少しずつ覚えていきます。何度も繰り返し数えていくうちに、1から10までの数の順番を覚えたり、その数の量を正しく知ることができます。順番の間違ひは棒の長さを見てわかり、自分で直すことが出来るのです。

この教具で数の量を知った後は数字の書き方を覚え、数字と量を合わせる活動を繰り返し行い、やがて十進法に進んでいきます。(H・K)



鏡を磨く

(日常生活の練習)



ピカピカなものが大好きな子ども達。鏡を磨く活動は、そんな子ども達の好奇心をかきたてる活動の1つです。小皿に出した少量の磨き液を麵棒で汚れた鏡に塗ります。白く乾いたら1つ目の綿ボールで拭き、2つ目にくるくると磨き、3つ目で仕上げ磨きをします。溝に入った汚れもブラシで掻き出すと鏡はピカピカに！自分で磨き上げた鏡を何度もにっこり覗き込む子ども達。とても細かい過程の中で集中力や、指先の動きの洗練、環境への配慮する気持ちが育っていきます。(M・A)



はめこみ世界地図

(文化の活動)



この教材は、文化の活動の「はめこみ世界地図」です。大陸や大洋に親しみながら、たくさんの国にふれていきます。パズルになって取り出すことができるので、今までに見たことがない不思議な形や様々な色に子ども達にとっては魅力的な活動のようです。「日本はどこ？」「日本は小さいね」世界の中にある日本…というように、まず全体を見せて、次に分析的に細分化していくのが、モンテッソーリ流です。活動の展開では、青バッチは、さらに画用紙に色塗りをしたり、形を切り取り地図作りをします。

完成させるのはとても長い活動ですが、青バッチはこの活動を通じて、根気強さや持続力、困難を乗り越える力などを身に付け、最後まで完成させていこうとする意志力や責任感も育っていくのです。そんな心の育ちを大切にしていきたいです。(Y・A)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介します目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

掃く

(日常生活の練習)



まず始めに1つ1つの教具について伝え、紙くずを集める為の円をチョークで床に書きます。書いた円の周りに紙くずを散らし、子どもサイズのほうきを両手でしっかりと握り持ち、円の中に紙くずを集めていきます。その際子どもたちは円の中に掃き集めるということに興味を示し、紙くずを円外に1つも残すことなく真剣に集めています。紙くずが全て集まると満足した表情を見せ、ちりとりで紙くずを取り、ごみ箱に捨てます。最後は濡れたスポンジで円を消し、お片付けとなります。このお仕事は“環境への配慮”が目的とされており、日々の生活にも繋がっています。お部屋の掃除時に自ら気づきほうきとちりとりを手にして、ゴミを掃き集めるお手伝いをしています。活動を繰り返すことで、自分の出来ることに対して自信をもって取り組んでいます。

(M・A)



色板Ⅲ

(感覚教育)



色板Ⅲの箱には、1色につき7段階の濃淡になった板が9色入っています。グラデーションになった色はとても微妙なもので、よく見ないと違いがわかりません。しかし子どもたちはその違いをすぐに見分けてしまうのです!!…なんかちょっと違う。」間違いはこの感覚で気づくことができます。並べ替えてみて「これだ!!」と思う順番が必ずあります。この活動で自分の好きな“青”という色の中にもいろいろな種類があって、それが“濃い青”や“淡い青”という名前がついていることを知ります。1人で9種類の色の濃淡を全て並べてみたり、お友達と一緒に並べてみたり、濃い色だけを集めてみたり…活動の方法は様々!!色についての知識が深まり、身の回りにある、たくさんの“色”にどんどん興味を示すようになります。

(H・K)



鉄製はめこみ

(言語)



これは、「鉄製はめこみ」という教材です。円、正三角形、正方形の基本図形から、花十字形、曲線三角形などの魅力的な形も含めて10種類あります。初めは、1つの形の枠に沿ってゆっくりと形を色鉛筆で書きます。そして、枠をとり、できた形と同じ図形をその上にぴったりと置き、2本目の色鉛筆で外側をなぞっていきます。描いた図形の中に縦や横の線を輪郭からはみださないように書きます。これが、なかなか難しいんです。活動を繰り返すことによって、さらに柔らかい手首が作られていきます。青バッチになると、色々な図形を用いて、複雑なデザインを考えます。色塗りや線を書いて、素敵な作品が、出来上がります。書くという目的だけでなく、視覚的な左右対称性や、論理的な芸術性、思考法を身に付ける目的もあるんです。お部屋にも飾ってありますので、ぜひ直接みて、感じてください。

(Y・A)



*保護者の方に“お仕事”を紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしています。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

数字と玉

(数教育)



子ども達は、数の活動の始まりである“数と量の一致”について、様々な活動を通じて理解していきます。『数字と玉』はその中の1つです。木製の、赤い切り抜き数字（1～10）と、赤い玉が55個、箱に入っています。最初にじゅうたんに数字を並べていきます。切り抜き数字なので、表裏を逆に置くこともあります。数字の形がしっかり定着してくると、正しく並べられるようになります。次にその数字の下に同じ数だけ赤い玉を並べていきます。2は・ 4は:: など、偶数は2列に。3は・・ など、奇数は最後の1つを2列の間に並べます。すると、じゅうたんの上になんともきれいな、数と量の一覧表が完成するのです。2列の間に指を通していくと、下までスーッと指が通るもの（偶数）、真ん中に1つあってぶつかるもの（奇数）が交互にくることに気が付いてくると、「なんだかおもしろい」という気持ちも重なり、子ども達の“数の世界”がまた一回り広がっていくのです。 (N・K)



銀行遊び

(ビーズとカード

による加法)

(数教育)



銀行あそびは、ビーズと数字カードを使って、たしざんやひきざんなどの四則計算をするお仕事です。子どもたちはこの活動に入るまでに、1、10、100、1000の10進法のビーズを使ったり、それらの数字が書かれたカードを合わせる活動を繰り返していますので、四桁の数字を作ったり、それに相当するビーズを準備することができるようになっていきます。この活動は2～3人で行ないます。たしざんの場合、それぞれが持ってきたビーズを風呂敷の中で一緒に合わせます。繰り上がりがあるような場合にも、「銀行やさん」にいて、両替、例えば1のビーズ10個と10のビーズ1本とを交換するなどして、進めていきます。いくつかの数と一緒にすることで、前よりも大きい数になるという、たしざんの概念を楽しみながら身をもって体験していくのです。(Y・K)



野菜の皮むき

(日常生活の練習)



この活動は、「野菜の皮むき」です。実際にきゅうりをピーラー、包丁を使って切ります。日常生活の活動の魅力は、子どもたちの身の回りにあって親しみのある道具を使うことができることです。特に「包丁」なんて特別に感じるようです。この気持ちは、道具を大切に、そして、正しく扱おうとする行動へと導いていきます。ですから私たちも必ず子どもの意識を確認しながら、ゆっくり扱い方をみせていきます。包丁は正しく扱わないと危ないものです。子どもたちはそのことをよく知っています。私たち大人がどのように道具を扱うかという姿もとても大切です。また、切ったきゅうりをお友達にごちそうをするのも魅力的です。活動の展開では、他の野菜や、果物、ジュースしぼり、野菜サラダ作りなどがあり、たくさんの体験をつなげていきたいです。 (Y・A)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

絵合わせ カード

(言語教育)



子どもたちは「ことば」を覚えるのが大好きです。そこで興味を持つ教材の中に絵合わせカードがあります。絵合わせカードは、正方形の画用紙 2 枚に同じ絵のついている物が 6 ～ 7 組あり、同じ絵カードの一方にはその物の名前が書かれており、もう一方には名前がついていません。そのかわり名前だけが記されている小さなカードがついています。初めは同じ絵と絵、2 枚のカードを合わせる事から始めます。そのうちカードについている字と、字の書いてある小さなカードも合わせます。「字」を形としてとらえている段階の子どもたちは、この工程を何度も繰り返し、楽しみます。その後「字が読みたい」という気持ちに変わっていきます。その時に、子ども達と一緒にカードを読むと、目がキラキラ、興味津々です。難しいことばも難なく覚えてしまう「言語の敏感期」です。絵合わせカードには様々な種類があります。そのなかで、興味のあるものを自分で選択できるのも、魅力的です。

(H・I)



構成三角形

(三角形の箱)

(感覚教育)



感覚分野の後半に差し掛かると、これまでの幾何たんすや色板などのおしごとで整理づけされてきた感覚を使いながら進めていく活動へと進んでいきます。その一つである「構成三角形」は全部で 6 種類の箱が用意されています。その 3 番目である「三角形の箱」の中には灰・緑・黄・赤のすべて同じ大きさの正三角形が 4 枚入っています。それぞれ、いくつかの同じ形の三角形から成り立っていることが分かるように黒線が書かれており、例えば頂点から垂直に降ろされた黒線によって、2つの直角不等辺三角形から 1つの正三角形が成り立つことに気づきます。同様に鈍角二等辺三角形 3つ、正三角形 4つからなり突ことを知ります。実際に折り紙を切って作ることによって形を分析し、同じ形でも切り方によって違う形ができる喜びを知ります。普段の生活でもケーキを切り分けるときなど、お子さんと一緒に探してみても楽しいでしょうね。

(H・M)



はたおり

(日常生活の練習)



これは、今青バッチが夢中になっている「はたおり」です。この時期、日常生活のプログラムの 1 つ「編む」という活動を準備するのですが、この活動は男女問わず、よく取り組んでいる姿がみられます。縦糸に毛糸を右から左、左から右へと毛糸を通していきます。縦糸が見えなくなるまで、くして整えながら、毛糸を通します。さすが、青バッチさん、とても器用に、素早く行い、集中力、持続力がついてきたことを確信させられます。また、毛糸を変えたり、美的感覚の発達も促され、こどもたちの感性はすばらしいものです。織り終わったあとは、ポシェットや敷物などこどもたちの創作する意欲は、高まっています。これから、たくさんの作品が出来上がるでしょう。

(Y・A)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは 1 人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1 人ひとり個性がありベースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしています。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

ひみつ袋

(感覚教育)



感覚教材の1つに「ひみつ袋」というお仕事があります。この教具は、かぎ・キーホルダー・さいころ・おはじきなど、1対の巾着袋の中に子どもたちの興味をそそる小物が入っています。まず、絨毯の前に2人が並んで座ります。先に取り出す人が袋の中に手を入れて好きなものを1つ出します。もう1人の人は、自分の持っている巾着袋から手探りで同じものを探し、絨毯に並べます。合っていたら大成功！この時のお約束ことは「袋の中を見ないこと」です。目をつぶって探すお友達や上を見ながら探すお友達など様々な姿が見られています。この活動は、指先と手のひらで触り、立体を識別する感覚を洗練させる活動になります。意外性のある、素材の違うものなどを頻繁に入れ替えて、子どもたちがわくわくできるような「ひみつ袋」を準備しています。

(Y・H)



砂文字板

(感覚教育)



これは砂文字板という教具です。18cmの木の板に50音のひらがなが1文字ずつ砂でふきつけられています。なぞるとざらざらした触覚で感覚の敏感期の子どもたちにとっては、刺激的で繰り返し向かいます。最初は、し、く、つ、など1回でなぞれる文字から始めます。視覚、触覚を使って文字の形を認識させます。軽くゆっくりとなぞり、この運動は筋肉記憶を促します。そして聴覚をとおして1文字1音を与えます。この活動は繰り返しなぞったり、発音したりすることが大切です。1文字なぞってお昼寝に入ったり、ゲームもたくさんあります。か行の砂文字板を持ってきて、1つだけ裏返しにして当てっこをしたり、背中に文字をかき、その文字の砂文字板を持ってきたり、子どもたちは喜んで文字に親しんでいます。Mの環境は、豊かな文字に囲まれ、年上からの刺激もたくさん受けています。ですから早い時期に「書く」機会も多くなりがちです。「書く」前に豊かな体験を積み重ねていけるよう、書く前の準備を大切にしていきたいです。

(Y・A)



銀行あそび/わりざん

(ビーズとカードによる除法)

(数教育)



銀行あそびの中でも青バッチさんが楽しんで取り組んでいるのがわりざんです。ビーズとカードを使って行なうグループ活動です。わりざんの概念を子どもたちに分かりやすい言葉で伝え、'大きい数をいくつかの同じ小さい数に分けること'ですが、実際にビーズを分けていくことでそれを体験します。3人の子供が集まり、例えば $4233 \div 3 =$ などの問題に取り組みます。4233のビーズを持ってきて、これを3人に同じ数ずつ分けるようにします。お約束は大きい位（この場合千の位）から分けていくことです。最初に4千のビーズを「あなたにひとつ」「あなたにひとつ」...と1つ（千で一つの塊のビーズになっています）ずつ3人に配ります。そうすると千のビーズが1つ残ります。'3人に分けられないよねどうする？'と尋ねると、子どもは'両替する！'といいます。千を百のビーズ10枚と交換してまた同じずつ配っていきます。そうして同じ数ずつ分けられるまで続け、最後に答えを出します。この活動を通して、公平に分けるという行為が、秩序感のある子どもたちの心の中に平和な気持ちをもたらすのです。

(写真は $9963 \div 3 =$ の問題をしているときの写真です) (Y・K)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

小さい黒板

(言語教育)



書く活動の最初の段階で行うのが『小さい黒板』というお仕事です。すりガラスの下に、筆順ごとに色分けされたひらがな(1 画目は赤、2 画目は青、3 画目は緑、4 画目は黄で書かれたもの)のお手本を敷き、チョークでなぞるというものです。初めて手にするチョークは子どもたちにとって魅力的で、興味深いものです。その上チョークは太さがあるので、親指・人差し指・中指を使った、鉛筆持ちの基本の3点持ちを意識しやすいのです。また湿ったスポンジでこすれば簡単に消すことが出来るので、書き直しては何度でも繰り返し行うことが出来るというのもこのお仕事の良いところです。この活動を通すことで、書くときの姿勢や、持ち方、筆順を自然と身につけるように導きます。お家でも書くことに興味を示すようでしたら、鉛筆の持ち方にちょっと気を付けてあげて下さい。またちゃんと持てないうちは、まだ早いので無理にさせないようにしましょう。

(M・A)



着衣枠

(日常生活の練習)



これは、日常生活の練習の活動の「着衣枠」です。モンテッソーリが考案したもので、木の枠に2枚の布が付けられ、ボタン、ファスナー、安全ピン、カギホック、リボン結びがあります。どれも子どもたちが、日常生活の中で出会い親しみのあるものです。その中でも難しいのは「リボン結び」です。黄色バッチさんはお当番活動で使用するエプロンを身につける時に出会い、青バッチさんに最初は手伝ってもらったりしますが、少しずつ自分でできるところまでチャレンジする姿がみられるようになります。日頃の日常生活とモンテッソーリ活動「着衣枠」の活動が連動し、リボン結びが「自分でできた」体験につながっていくのです。その時は、なんとも言えない喜びでしょう。出来るようになるまで何度も挑戦し、繰り返し、子どもたちは努力をお楽しみません。また、その喜びは他者への関わりにもつながっていきます。小さい子のエプロンのリボン結びをすすんで手伝ってあげています。そんな自分を誇らしげに思う気持ちを大切にしていきたいです。

(Y・A)



切手あそび/たしざん

(数教育)

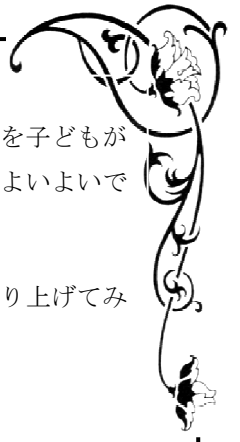


銀行あそびで十分に数量を理解した子どもたちは、次に個別活動の「切手あそび」へと続きます。1cm角の小さなチップ状の「切手」と呼ばれる教具は、各位の色と数字のみが違い、形やサイズはすべて同じという、これまでより少し抽象的な活動です。「2154+3211」の場合2154と同じ数の切手を上段に位ごとに並べます。次に下段も同様に3211を並べ終えると1の位だと上段の4つと下段の1つの切手が一つなぎとなるよう、指一本で動かして答えを求めていきます。「たす」概念を十分に理解した子どもたちは当然のように次々つないでいきます。この繰り返しの操作を夢中で取り組むことで1人で出来たという自信を積み重ねていきます。単なる活動でなく自立、忍耐力など自分自身を成長させていく、いわば一人の人格者を創り上げていく間接的な目的も含まれています。

(M・H)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的には子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。



マリア・モンテッソーリ著「創造する子ども」より
第18章 子どもの性格とその欠点

性格の自然形成

もう一つ明らかにしておくべき重要事項があります。幼児の性格形成に関するものです。

「性格」は、子ども一人ひとりの創造的生命が、外界で出会う様々な事柄にどのように対応していくか、努力していくかで発達していきます。個人個人の差は、日常生活におおいに影響されます。個人が諸条件に適応しようと努力することによって無数の差異が生じてくるわけです。

前に述べたように、発達の第1段階(0～6歳)は、創造の時期で、性格の根もまたこの期に発します。小さな子どもには、正邪の観念がありません。まだ私達の道徳観念外に住んでいるのです。実際子どもをつかまえて、「おまえはならず者だ、悪人だ」とは言わないでしょう？ 善悪の観念が特徴的となるのは、第2段階(7～12歳)です。道徳観念が形成され、これは後に社会観へとつながっていきます。各期はそれぞれ根本的に異なっていますが、一方で実は次の期の基礎を築いています。「未来を築くには現在に注意を怠るな」ということです。つまり、ある期の必要性がよく満たされる時、それに続く期の成功は大きいといえます。

子どもは初めの2～3年で将来を左右するような影響を受けます。この期に負傷したり、暴力を受けたり、大きな障害に遭うと、人格の発達の阻害要因となります。受胎期、妊娠期、出生時、出生後と子どもが正しく扱われるなら、理想的な原型が出来上がるわけですが、現実にはなかなかそうはいきません。3歳位で性格の違いははっきりとしてきます。生後0～3歳の間に身に付いた性格の弱点は、次の3～6歳の間に矯正しようと事実上結論されましょう。この時期は、天性により、完成に向かって特別活発な活動をしている時期だからです。

極端な弱点は精神生活と知性に跳ね返ってきます。第1期で自分の力を伸ばすことができない環境に置かれた場合、第2期で学習困難に陥ったり、道徳観を発達させ得なかったりして、さらなる問題を呼び込んで不適応状態を作り出します。

何か性格的に問題を感じる時は、その理由を子どもが以前に送った生活の中探そうにしてみるとよいでしょう。

ここでは、一般的に目に付く両極端の例を取り上げてみましょう。

＜強い子ども＞

動きが激しく、怒りっぽく、反抗的侵略的行動、独占所有欲、利己的、嫉妬深い、注意の集中ができない、物を落として壊す、怒鳴る、跳ね回る、人の邪魔をするなど。

＜弱い子ども＞

無感動、無気力、激しい泣き、人にやってもらいたがる、機嫌を取ってもらいたがる、すぐに退屈する、嘘つき(消極的自己防衛)、盗み(他人のものを所有するための代償行為)、悪夢、拒食過食など。

こうした子ども達は、扱いにくいと言われます。強い子どもは特に、「良い子」とは思われていません。親は、怒鳴りつけたり、たたいたり、脅したりして手厳しくやっつけようとします。或いは、説得戦術で理屈を言い聞かせたり、泣き落としにかかったりして、子どもの感情や心に訴えようとします。そして、ついにはサジを投げってしまうのです。弱い子どもは、得てして問題をおこしませんから、「この子は従順で良い子」「私が好きだから、離れられないのだから」「優しくて、繊細な感受性を持っているのよ」と解釈します。やがて見落とされるか、病院行きとなります。

もし私達が、いかにして一人の子どもの人格形成活動の周期が進行するのかわかるならば、こうした子どもたちの問題は、解決の道に踏み出す事ができるでしょう。発達の中で、子どもの自発的行動が禁止されたり、大人が何でもやってしまったりすることが度重なると、こうした性格的な弱点が顕著になってきます。子どもが何か頭を使うことを始めたら、もう不必要な手助けをしたり、妨げたりしてはいけません。人間は自分なりの社会適応の行動法を、自分で築き上げなければなりません。これは道徳教育の問題ではなく、人間形成の問題です。おどしたり、おだてたりする必要はなく、ただ生活環境を正しい形にすることのみが必要なのです。

(要約文責： 園長 正岡里鶴子)